

たび重なる不適切発言 反省の姿勢なきその後の態度・・・ 「中川幹太市長は勧告に従い辞職すべき」と、不信任決議案を提案



相手の尊厳を否定するような発言を繰り返してきた中川幹太市長に対して、市議会は7月14日に辞職を勧告する申し入れをしました。市長は「任期を全うする」として応じない姿勢を示しています。

そこで、日本共産党議員団は法的拘束力のある「不信任案」を提出、上野議員が、「発言に関係する相手方の人権や人間的価値を尊重するという人間として最低限必要な態度が身についていない」「また反省や行動の刷新が全くない。市長の資

質には決定的に欠ける」と、提案説明をしました。

また、平良木議員が賛成討論に立ち、「市民の信頼を裏切る不適切発言を繰り返す方には、17万市民の頂点に立つ重責を担ってもらうわけにはいかない」と糾弾しました。

不信任案は、採決の結果、賛成10、反対22で、残念ながら否決されましたが、任期中に1年もおかずに2度の不信任案が提出される事態はただ事ではありません。



不信任案が提出された後の討論では、別の議員が反対討論に立ち、「不信任決議案の提出の趣旨・案文に異論はないが、補正予算案などの採決が行われなまま閉会するおそれがある」などと述べました。

しかし、議案の内容は9月中の委員会審議が尽くされており、採決はあとでもできます。また、決算認定は、法的には効力がなく、来年度予算の編成には事実上影響はありませんので、全く心配はありません。このことは議会のイロハです。

不信任案に異論がないのであれば、趣旨を尊重して賛成し、市長の責任を問うべきです。

2つの意見書を提案するも、反対討論もなく否決？！

日本共産党議員団は、9月議会最終日に、市民生活を守る2つの意見書の採択を提案し、国に対してしっかりと声を届けることの重要性を訴えました。

【1】国民健康保険財政への国庫負担の増額を求める意見書

全国知事会は「国民健康保険の保険料水準を協会けんぽ並みに引き下げるために必要な公費として、1兆円の財政支援の拡充が必要」と、金額を明示して要望し続けています。また、各市町村では、国保財政の運営が困難で、財政難解消の手立ての保険税の引き上げが新たな滞納を増やし国保財政を圧迫する悪循環を招いています。これらのことから、政府に対し、国民健康保険財政への国庫負担を抜本的に増額することを強く求める意見書です。

【2】米の安定供給体制の確立と農業基盤強化に向けた施策の推進を求める意見書

秋の新米価格が高値で推移していることもあり、依然として国民生活に大きな影響があることや、生産現場では農業生産資材価格等の高騰が深刻化し、経営が圧迫されている状況が続いていることなどから、政府に次の点を求める意見書

- ① 生産調整につながる制度の再検証と、需要増を見越した生産量拡大。
- ② MA米の主食への拡大や、外米の輸入拡大は行わず、国内生産力の確保を。
- ③ 所得補償制度で農業再生産に必要な経費を保障し、消費者が買える小売価格を維持するため、生産経費と小売価格との差額の補填と生産者への負担軽減策を。
- ④ 米の流通ルートの点検ができる制度の

設計や、増産時の輸出ルートの確保で、米の価格安定を図ること。

- ⑤ 新規就農者、地域農業法人への支援強化で担い手確保の支援制度の整備を。
- ⑥ 国内向け主食用米以外についての生産販売支援制度の充実を。
- ⑦ 農地の維持、活用を前提とした環境保全型農業への転換を。

このように、2つの意見書は至極当然の内容であり、他の自治体の中には全会一致で採択しているところもあります。

ところが、上越市議会では、反対討論を行う議員もいないまま、反対多数で不採択となりました。

理由も示さずに反対するのは、市民に説明が付きません。変な話です。

日本共産党上越市議員団ニュース

No.886 2025年10月5日

連 上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)
絡 橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
先 平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田(金谷区))
ホームページ <https://jcpjoetsugiindan.webnode.jp/>